

マルコの福音書 8章 14-33節 イエスに従う者の信仰の成長

今日は一見すると、まるでバラバラに見える3つの出来事を扱った、かなり長い聖書箇所を見ていきましょう。しかし、これから見ていくように、この3つの出来事は一緒であるだけでなく、キリストに従う者の人生における不信仰の危険性を警告しているのです。今日の箇所のそれぞれの出来事は、盲目とイエス・キリストによる癒しを示しています。まず、いまだ靈的に盲目なままの弟子たちのマルコによる福音書 8章 14節から 21節にある最初の出来事を読んでみましょう。

Mark 8:14 弟子たちは、パンを持って来るのを忘れ、一つのパンのほかは、舟の中に持ち合わせがなかった。15 そのとき、イエスは彼らに命じられた。「パリサイ人のパン種とヘロデのパン種には、くれぐれも気をつけなさい。」16 すると弟子たちは、自分たちがパンを持っていないことについて、互いに議論し始めた。17 イエスはそれに気がついて言われた。「なぜ、パンを持っていないことについて議論しているのですか。まだ分からないのですか、悟らないのですか。心を頑なにしているのですか。18 目があっても見ないのですか。耳があっても聞かないのですか。あなたがたは、覚えていないのですか。19 わたしが五千人のために五つのパンを裂いたとき、パン切れを集めて、いくつのかごがいっぱいになりましたか。」彼らは答えた。「十二です。」20 「四千人のために七つのパンを裂いたときは、パン切れを集めて、いくつのかごがいっぱいになりましたか。」彼らは答えた。「七つです。」21 イエスは言われた。「まだ悟らないのですか。」

弟子たちは、イエス・キリストの本質をこれ以上強く信じる者はいないだろうと思わせるほど、多くのことを見、多くのことを経験してきました。イエスがここで行われた二つの奇跡の御業、5000人の給食と4000人の給食について考えてみてください。私たちは、4000人の給食で弟子たちが明らかに信仰を示したことを指摘しましたが、弟子たちはイエスとイエスがどのようなお方であるかを十分に理解し、信頼することができませんでした。イエスがパンがないことに関する弟子たちの会話を、先週見た11節のパリサイ人たちの要求と比較されていることから、彼らの不信仰を見ることができます。マルコによる福音書 8章 11節にはこうあります。

マルコの福音書 8章 11節

11 すると、パリサイ人たちがやって来てイエスと議論を始めた。彼らは天からのしるしを求め、イエスを試みようとしたのである。

パリサイ人はイエスを信じておらず、イエスについてすでに知っていたにもかかわらず、ただしるしが見たかったのです。イエスは18節で、マルコ4章12節でイエスの敵であるパリサイ派の人々について述べた時と同じ言葉を弟子たちにも用いられています。

マルコの福音書 4章 12節 それはこうあるからです。『彼らは、見るには見るが知ることはなく、聞くには聞くが悟ることはない。彼らが立ち返って赦されることのないように。』

弟子たちは空腹を口にするので、律法学者やパリサイ人が示したのと同じ信仰の欠如を本質的に示していました。彼らは空腹であったにもかかわらず、自分たちの生活における肉体的、靈的な必要を満たして下さるお方が目の前にいることがわからなかったのです。彼らは、過去に主が奇跡を行い、食べ物を与えられたのを見ていたのに、パンを忘れたのは誰のせいだと言い争っていたのでした。彼らが状況を議論していたというのは、きっとそういうことでしょう。

救い主に会い、救い主との貴重な関係に時間をかけたり、味わったりするよりも、彼らは空腹感で頭がいっぱいだったのです。そこでイエスは彼らに言われました。今、あなたたち弟子たちは不信仰という危険な立場にいます。イエス・キリストとの関係の本当の実りを見逃しています。イエスがパン種のことを否定的な意味で語るのには、心に少しでも不信仰が入り込むと、最終的にキリストから引き離され、不安や恐れや懐疑につながることを警告するためでした。

つまり、この時点で弟子たちは、靈的に盲目の人のように振る舞っているのです。盲目の彼らは、キリストを見ることができず、キリストを本当に理解することができなかったのです。私たちは今日でもこのような立場にいますでしょうか？もちろんそうです。私たちは皆、人間関係や困難な状況を切り抜ける方法、経済的なこと、その他多くの不快で恐ろしい状況について、イエスを信頼する必要があることが一度や二度はあるでしょう。

そして、イエスに信頼し、イエスの御臨在の約束に安らぐ代わりに、私たち自身が不安になり、心配し、疑い...怒りさえ覚えるかもしれません。イエスは弟子たちに言われたように、私たちにも言われたのです！気を付けなさい。不信仰には危険が伴います。しかしイエスは、盲目の弟子たちに信仰の

欠如を警告するだけでなく、今度は肉体的に盲目の人を癒すことによって、弟子たちの信仰の本質について教えようとなさっているのです。

22 節から 26 節を読んでみましょう。

22 彼らはベツサイダに着いた。すると人々が目の見えない人を連れて来て、彼にさわってくださいとイエスに懇願した。23 イエスは、その人の手を取って村の外に連れて行かれた。そして彼の両目に唾をつけ、その上に両手を当てて、「何か見えますか」と聞かれた。24 すると、彼は見えるようになって、「人が見えます。木のようですが、歩いているのが見えます」と言った。25 それから、イエスは再び両手を彼の両目に当てられた。彼がじっと見ていると、目がすっかり治り、すべてのものがはっきりと見えるようになった。26 そこでイエスは、彼を家に帰らせ、「村には入って行かないように」と言われた。

弟子たちは自分たちの信仰のなさに気づいていなかったのも、その無知がどのように霊的な視力に変わるかを教えるために、イエスは今度は盲人をいやされたのです。これは福音書の中で唯一、段階的に行われる癒しであり、一度の奇跡的な行為では起こりませんでした。他のすべての癒しとの違いには重要な意味があるはずですが、イエスは最初から彼を完全に癒すことができなかつたのでしょうか？もちろんそうではありません。私たちは以前、ある女性がイエスの衣に触れただけで完全に癒されたのを見ました。イエスが望まれば、盲人をすぐに癒せなかつたはずは決してありません。ここでもまた、耳が聞こえず話すこともできない男の癒しで見たように、イエスは御自分の唾液を使ってこの男を癒されました。

以前お伝えしたように、この体液の使用は、罪の赦しのために私たちに代わって塗られなければならなかつたイエスの犠牲の血が流される御自身の十字架上の死を予期していたものであったのです。この奇跡は、この男のためではありませんでした。見ていたであろう群衆のためでも、この男の友人のためでもなく、弟子たちのためだったのです。

それは、イエスが弟子たちの人生においてしておられること、そしてこれからもして下さることを、彼らに思い描かせるためのものでした。彼らの信仰は、この盲人の癒しから始まりました。彼らには**人が見えます。木のようですが、歩いているのが見えます。**

イエスが弟子たちに彼らの不信仰の危険性を突きつけた前回のエピソードに、このぼやけた信仰の兆候が見られます。私たち全員にとって、信仰とはこのようなものです。私たちがキリストのもとに来るのは、自分の罪と救い主の必要性を認識するからです。しかし、私たちの信仰は時間をかけて成長すべきものであり、私たちのクリスチャン生活は停滞した信仰ではなく、成長する信仰生活なのです。**2 ペテロ 3:18 は、このプロセスを描写しています。ペテロの手紙第二 3 章 18 節 私たちの主であり、救い主であるイエス・キリストの恵みと知識において成長しなさい。イエス・キリストに栄光が、今も永遠の日に至るまでもありますように。**神の恵みは変わりません。それは、救いにおいて、神が恵みを差し伸べた人々に対しては無限なのです。つまり、成長とはキリストを信じる信仰において、私たちは自分の罪と、それゆえにイエス・キリストにおいて私たちに差し伸べられた神の恵みが必要であることをますます自覚するようになることです。私たちの救いがどれほどの代価を要したのか、また、私たちの罪が私たちの人生にどれほど深いものであるかに照らして、その救いがどれほどの価値があるのか、私たちの知識が深まれば深まるほど、私たちは神が私たちに向けて差し伸べてくださっている恵みを本当に理解し、そこに希望を見出すようになります。自分自身の内面に深く入り込み、ありのままの自分を見れば見るほど、詩篇 14:2-3 の真理が明らかになります。**詩篇 14 篇 2-3 節 主は天から人の子らを見下ろされた。悟る者 神を求める者がいるかどうかと。3 すべての者が離れて行き だれもかれも無用の者となった。善を行う者はいない。だれ一人いない。**この真理は、テトス 2 章 11 節のシンプルな言葉が、私たちがいかに墮落し、罪深い存在であるかを理解すればするほど、より重要な意味を持つことを意味しています。

ちが望む以上に偉大なものなのです。ティム・ケラー師から何度も引用しているように、**福音とはこうです：私たちは、これまで信じてきたよりはるかに罪深く、欠陥だらけです。しかし同時に、イエス・キリストにあって、これまで望んできたよりはるかに愛され、受け入れられているのです。**私たちと同じように、またこの癒された盲人と同じように、弟子たちも霊的健康の成長過程にありました。彼らの信仰は時に弱かつたのです。彼らは救い主よりもむしろしるしを求めました。彼らは、イエスが自分たちのために発揮して下さる力を忘れていました。しかし、彼らの信仰は本物であり、私たちと同じように成長し続けます。このセクションが終わり、次のセクションが始まる時、

私たちはまさにそれを目の当たりにします。弟子たち、彼らの靈的な視野の欠如、信仰の欠如が、イエスがそれを示しているのと同じように、改善され始めていることを示しています。イエスは盲人に肉体的な癒しをもたらしただけでなく、靈的に見えなくなっていた弟子たちにも靈的な癒しをもたらしました。

27-33 節を読みましょう。27 さて、イエスは弟子たちとピリポ・カイサリアの村々に出かけられた。その途中、イエスは弟子たちにお尋ねになった。「人々はわたしをだれだと言っていますか。」28 彼らは答えた。「バプテスマのヨハネだと言っています。エリヤだと言う人たちや、預言者の一人だと言う人たちもいます。」29 するとイエスは、彼らにお尋ねになった。「あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。」ペテロがイエスに答えた。「あなたはキリストです。」30 するとイエスは、自分のことをだれにも言わないように、彼らを戒められた。31 それからイエスは、人の子は多くの苦しみを受け、長老たち、祭司長たち、律法学者たちに捨てられ、殺され、三日後によみがえらなければならないと、弟子たちに教え始められた。32 イエスはこのことをはっきりと話された。するとペテロは、イエスをわきにお連れして、いさめ始めた。33 しかし、イエスは振り向いて弟子たちを見ながら、ペテロを叱って言われた。「下がれ、サタン。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている。」

このイエスの質問とペテロの応答がマルコ福音書の頂点です。他のすべては、この応答につながっていました。マルコによる福音書がマルコによる福音書 1 章 1 節でどのように始まるか覚えていますか。「**神の子イエス・キリストの福音の始まり**」で始まっていることを思い出してください。その目的は、イエスが約束のメシア、キリストであり、マリアの子であるだけでなく、神の御子であり、神御自身であることを証明することです。これらの弟子たち、特にマルコ書の元となったペテロは、イエスに密着し、この世の誰よりもイエスを知っていました。彼らはあらゆる奇跡を目撃し、あらゆる教えやたわいのない言葉を聞き、イエスと語り、共に祈り、イエスの一挙手一投足をつぶさに見てきました。イエスは今、彼らの弱い信仰が、少なくとも彼という人物に対する本当の信仰であるかどうかを確かめるために、彼らの反応を試しておられます。イエスはまず、普通の人自分が自分をどのように見ているかを尋ねられます。

もちろん、反応はさまざまですが、その答えから、人々はイエスが誰であるかという超自然的な答えを進んで受け入れているように見えます。

バプテスマのヨハネはすでに死んでおり、エリヤは何百年も前に生きました。また、今神から遣わされた特別な預言者であるなど、彼らはイエスを正しく理解するところからはとてもかけ離れています。しかし、そこでイエスは非常に個人的な質問をされます。**あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。**私たちはそこで立ち止まる必要があります。なぜなら、これは私たち全員が答えなければならない質問だからです。

そして、この質問に対する私たちの答えが、私たちがキリストに従う者であるか否かを決定します。キリストに会ったが、本当の意味で従わなかった者たちは、キリストが誰であるかについて間違った答えを持っていました。しかし、この弟子であるペテロは、これは悪い意味ではありますが、非常に人間的であり、キリストに従う者の普通の模範であったペテロは、この一つのことに関しては正確に理解しています。マルコ書全体を通して最も重要な言葉であり、ペテロの生涯で最も重要な言葉でもあります。

この言葉が彼のその後の人生を形作りました。**"あなたはキリストです。"**そして、ペテロはさらに踏み込んだことを言ったと思われませんが、福音記者、マルコ、を通しての彼の説明では謙遜である可能性が高いと思われれます。マタイは、ペテロが**"あなたはキリスト、生ける神の子です"**と言ったと伝えています。マルコが指摘してきたことこれがすべてです。イエスは救い主であり、約束されたメシアであり、キリストに従う真の者たちはそれを理解し、イエスを受け入れ、救い主として従います。単なる良い預言者ではなく、生まれ変わった靈的な人間でもなく、世の救い主として遣わされた御子なる神として！

しかし、このマルコ書のクライマックスの一つである宣言、をもってしても、ペテロはイエスをメシアとして誤った考えに固執しています。彼の見解は、イエスと過ごした時間によって正しく形成されたものではありませんが、同時に彼の社会と文化によって歪んだ視点と視覚の影響を受けています。彼はイエスを神の子、メシアとして正しく信じていますが、彼の信仰は **人が見えます。木のようです**

が、歩いているのが見えます、のようなものであることがまだわかります。彼はまだはっきりと見ていないのです。このことは、イエスが自分の死について語ったときの彼の反応に表れています。イエスは31-32節で、自分がメシアであることの本当の意味を初めて明確にされました、

31 それからイエスは、人の子は多くの苦しみを受け、長老たち、祭司長たち、律法学者たちに捨てられ、殺され、三日後によみがえらなければならないと、弟子たちに教え始められた。32 イエスはこのことをはっきりと話された。するとペテロは、イエスをわきにお連れして、いさめ始めた。

この時点から、イエスは弟子たちに、御自分の来臨の目的は死んで復活することであるとはっきりと語っておられます。イエスが御自分の死をはっきりと予言されるのは3回あり、これはそのうちの1回目です。そして、ペテロはイエスを叱責することによって、自分の信仰の不完全さを明らかにしています。彼は、征服する王として民を解放するという自分の社会のメシア像が間違っていると聞き理解する準備ができていなかったのです。彼はイエスをメシア、唯一の救い主として完全に受け入れていました。しかし、私たちの多くがそうであるように、彼の見方は不完全だったのです。イエスは、神の主権的な御計画ではなく、人間の考えを通してメシアを見ていた彼は、サタンに利用されていたと言われるほど不完全だったのです。

だから33節で、**下がれ、サタン。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている。**とイエスは言われたのです。イエスに対する私たちの信仰は、私たち自身の考えではなく、神の啓示に根ざしたものでなければなりません。神は天地創造の前から、イエスをこの世に遣わすことを意図しておられたのです。ローマ政府を転覆するためではなく、世の罪のために死ぬためです。やがてペテロは、盲人と同じように完全に癒されます。復活した救い主イエス・キリストに対する彼の信仰は、使徒の働き2章にあるペンテコステの日に立ち上がり、イエス・キリストの完全な福音を宣言することにつながっていきます。神の御子、メシアであるだけではなく、イエスの死と復活によってメシアとしての証明を決定的にしました。

使徒の働き2章32節このイエスを、神はよみがえらせました。私たちはみな、そのことの証人です。

ですから、私たちにはまだ希望があります。ペテロという人の信仰が弱く未完成であったにもかかわらず、実に真の信仰であったことに希望があるのなら、私たちにも希望があります。しかし、もし私たちがペテロのようにイエス・キリストの福音を大胆に宣言するところまで信仰を成長させようとするなら、私たちの信仰は、私たち自身の考えや社会の理解ではなく、聖書に啓示されているイエス御自身に根ざしたものでなければなりません。ペテロがユダヤの宗教文化に影響されたメシアではなく、本当の神を見る必要があったように、私たちもイエスをありのままに見る必要があります。イエスは、救い主として十字架上で死なれ、私たちの救いを完成させるためによみがえられるという唯一の目的のために人となり肉体を持たれた神御自身なのです。キリストに従う者として、私たちはイエスの過去の誠実さに注目するよう求められています。弟子たちが見たものを目の当たりにして、再び食べ物心配をすることを想像できますか。私たちは、神に対する反逆の永遠の結果からの救いという、最大の奇跡を目の当たりにしたのです。人生のあらゆる局面で、彼を信頼せずにおられるでしょうか。あなたはイエスをメシアとして、救い主として知っていますか？そして彼を信頼し、彼への信仰を日々深めていますか？祈りましょう。

Mark 8:14-33 The growth of a follower's faith

Today, we will be looking at quite a long passage that covers 3 events that may seem to be disconnected at first. But as we will see, they not only go together but serve to warn us of the danger of unbelief in the life of a follower of Christ. Each event in this passage today shows blindness and the healing that takes place through Jesus Christ. Let's begin by reading about the first event in Mark 8:14-21 where we see **the continued blindness of the disciples**. ¹⁴ Now they had forgotten to bring bread, and they had only one loaf with them in the boat. ¹⁵ And he cautioned them, saying, "Watch out; beware of the leaven of the Pharisees and the leaven of Herod." ¹⁶ And they began discussing with one another the fact that they had no bread. ¹⁷ And Jesus, aware of this, said to them, "Why are you discussing the fact that you have no bread? Do you not yet perceive or understand? Are your hearts hardened? ¹⁸ Having eyes do you not see, and having ears do you not hear? And do you not remember? ¹⁹ When I broke the five loaves for the five thousand, how many baskets full of broken pieces did you take up?" They said to him, "Twelve." ²⁰ "And the seven for the four thousand, how many baskets full of broken pieces did you take up?" And they said to him, "Seven." ²¹ And he said to them, "Do you not yet understand?"

The disciples had seen so much and experienced so much that you would think there would be no stronger believers in the nature of Jesus Christ. Just think of the two miracles that Jesus brings up here, the feeding of the 5000 and the 4000. We pointed out that they clearly demonstrated faith themselves in the feeding of the 4000, and yet the disciples failed to fully appreciate and trust Jesus and who he is. The way that we see their unbelief is that Jesus is comparing their conversation regarding their lack of bread to the request by the Pharisees in verse 11 that we looked at last week. As a reminder, [Mark 8:11](#) says, [11 The Pharisees came and began to argue with him, seeking from him a sign from heaven to test him.](#) The Pharisees didn't believe in Jesus, and they just wanted to see a sign in spite of everything they already knew about him. Jesus even talks about the disciples using the same words in verse 18 that he used to describe the Pharisees, his enemies, in [Mark 4:12](#), ["they may indeed see but not perceive, and may indeed hear but not understand, lest they should turn and be forgiven."](#) In bringing up their hunger, the disciples were essentially showing the same lack of faith that the scribes and Pharisees had exhibited. They were hungry, but were entirely missing the one in their presence who could meet the physical and the spiritual needs in their life. They had seen him do the miracles and provide food in the past, and yet here they were arguing about whose fault it was that they forgot the bread. That's what it likely means that they were "discussing" the situation. Rather than seeing their Savior and savoring or investing in this precious time of relationship with him, they were consumed with their growling stomachs. So, Jesus says to them, watch out! Right now, you disciples are in the dangerous position of unbelief. You are missing the real fruit of a relationship with Jesus Christ. He talks about leaven in a negative way to warn them that a little bit of unbelief that you allow to get into your heart can ultimately pull you away from Christ and lead you to anxiety fear and doubt. In other words, at this point, the disciples are acting like a spiritually blind person. In their blindness they failed to see and really understand Christ. Do we still find ourselves in this position today? Of course we do. All of us will find ourselves at one time or another of needing to trust Jesus with a relationship, or with a way forward through a difficult circumstance, or with our finances or any other number of uncomfortable and scary situations. And instead of trusting in Jesus and resting in the promise of his presence, we find ourself anxious and worried

and doubting...maybe even angry. And Jesus is saying to us what he says to the disciples – watch out! There is a danger in unbelief. But Jesus is not going to just warn disciples who were blind to their lack of faith, he will teach them about the nature of their faith by now healing a physically blind man.

Let's read verses 22-26. **22 And they came to Bethsaida. And some people brought to him a blind man and begged him to touch him. 23 And he took the blind man by the hand and led him out of the village, and when he had spit on his eyes and laid his hands on him, he asked him, "Do you see anything?" 24 And he looked up and said, "I see people, but they look like trees, walking." 25 Then Jesus laid his hands on his eyes again; and he opened his eyes, his sight was restored, and he saw everything clearly. 26 And he sent him to his home, saying, "Do not even enter the village."** The disciples were blind to their lack of faith, so **Jesus now heals a blind man** to teach them how that blindness will become spiritual sight. This is the only healing in the gospels that takes place in stages, and doesn't happen in one miraculous act. This has to be significant in this difference from all the other healings. Is it that Jesus is unable to completely heal him at first? Of course not! We saw previously, a lady simply touch his robe and she was completely healed. It is impossible that Jesus could not have healed him immediately if he wanted to. Again, as we saw in the healing of the man who was deaf and unable to speak, Jesus used his own saliva to heal this man. We said previously that this use of bodily fluids anticipated his death on the cross, which provided his sacrificial blood that has to be applied on our behalf for forgiveness of sins. This miracle was not for this man. It was not for the crowds who were likely watching or for the man's friends. It was for the disciples. It was meant to picture for them what Jesus is doing and will continue to do in the lives of the disciples. Their faith began as the healing of this blind man. They see **"people...[who] look like trees, walking..."** The evidence of this blurry faith is seen in the previous episode as Jesus confronted them on the danger of their unbelief. For all of us, this is the way our faith is. We come to Christ because we recognize our sin and our need of a Savior. But our faith should grow over time, our Christian life is a life of growing not stagnant faith. **2 Peter 3:18 describes this process... 18 But grow in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be the glory both now and to the day of eternity. Amen.** God's grace does not change...it is infinite towards those he has extended his grace toward in salvation. So, the growth is in our faith in Christ, where we grow more and more aware of our sin and therefore our need of God's grace that has been extended towards us in Jesus Christ. The more we grow in our knowledge of how much our salvation cost, and how much it is worth in the light of how deep our sin really goes in our lives, the more we really understand and find hope in the grace that God is extending towards us. The deeper we go within ourselves to see ourselves as we really are, the more the truth of **Psalm 14:2-3** becomes clear. **The Lord looks down from heaven on the children of man, to see if there are any who understand, who seek after God. 3 They have all turned aside; together they have become corrupt; there is none who does good, not even one.** This truth means that the simple words of Titus 2:11 become more significant the more we understand how corrupt and sinful we really are. **Titus 2:11 says, 11 For the grace of God has appeared, bringing salvation for all people...** God's grace that offers salvation and forgiveness of sin to all who call upon Jesus is greater than we could ever hope for in light of our sin.

As I have quoted from **Tim Keller** many times, **"The gospel is this: We are more sinful and flawed in ourselves than we ever dared believe, yet at the very same time we are**

more loved and accepted in Jesus Christ than we ever dared hope.” The disciples just like us, just like this blind man who was healed were in a process of growing spiritual health, and it was not an immediate process. Their faith was at times weak. They looked for signs rather than at their Savior. They forgot the power that Jesus could offer on their behalf. But their faith was real and it would continue to grow just as ours can as well. That is exactly what we see as this section ends and next begins. The disciples show their spiritual lack of vision, their lack of faith, beginning to improve just as Jesus is showing them that it would. **Jesus not only brings physical healing to a blind man, but spiritual healing to blind disciples.** Read verses 27-33. **27 And Jesus went on with his disciples to the villages of Caesarea Philippi. And on the way he asked his disciples, “Who do people say that I am?”** **28 And they told him, “John the Baptist; and others say, Elijah; and others, one of the prophets.”** **29 And he asked them, “But who do you say that I am?”** Peter answered him, **“You are the Christ.”** **30 And he strictly charged them to tell no one about him. 31 And he began to teach them that the Son of Man must suffer many things and be rejected by the elders and the chief priests and the scribes and be killed, and after three days rise again. 32 And he said this plainly. And Peter took him aside and began to rebuke him. 33 But turning and seeing his disciples, he rebuked Peter and said, “Get behind me, Satan! For you are not setting your mind on the things of God, but on the things of man.”** This question of Jesus and response of Peter is the high point of the Gospel of Mark. Everything else has been leading to this response. Remember how the Gospel of Mark begins with **Mark 1:1, The beginning of the gospel of Jesus Christ, the Son of God.** The goal is to prove that Jesus is the promised Messiah, the Christ, not only the son of Mary, but the very Son of God, who is God himself.

These disciples, Peter specifically, who is the source of this book of Mark, have been following Jesus closely and know him better than anyone else on earth. They have seen every miracle, heard every teaching and every idle word, talked with him, prayed with him, and watched his every move in detail. Jesus is now testing their response to see if their weak faith is at least real faith in who he is. He begins by asking how the average person sees him. Of course, the responses vary, but while it seems by the responses that people willingly accept a supernatural answer to who Jesus is... John the Baptist is dead, Elijah lived hundreds of years in the past or a special prophet sent by God now, they are very far from really understanding Jesus. But then Jesus makes the question very personal, **But who do you say that I am?** And we need to stop right there. Because this is the question that all of us have to answer. And our answer to this question determines whether we are a follower of Christ or not. The ones who met Christ, but had not truly followed, had the wrong answer for who he was. But Peter, this disciple, who was a very human, meaning bad but normal example of a follower of Christ, Peter, gets this one thing exactly right. It is the most important words in the entire book of Mark and the most important words of Peter's life. These words shaped the rest of his life. **“You are the Christ.”** And it is likely that Peter went further, but is likely humble in his account through the writer Mark. Matthew tells us that Peter said, **“You are the Christ, the Son of the living God.”** This is everything that Mark has been pointing to. Jesus is the Savior, the promised Messiah, and the true followers of Christ will see that and accept him and follow him as their Savior. Not just a good prophet, not even a reincarnated spiritual man, but as the God the Son sent to be the Savior of the world!

But even with this declaration, this high point for the book of Mark, Peter is still clinging to some wrong ideas of Jesus as the Messiah. His views are shaped rightly by his time with Jesus, but also wrongly by his society and culture. He believes rightly in Jesus as the Messiah, the Son of God, but again we see that his faith is like “people...[who] look like trees, walking...” He still isn’t seeing clearly. We see this in his response to Jesus talking about his death. Jesus became for the first time very clear about what his being the Messiah really meant in verse 31-32, **31 And he began to teach them that the Son of Man must suffer many things and be rejected by the elders and the chief priests and the scribes and be killed, and after three days rise again. 32 And he said this plainly.** From this point on, Jesus is very clear to his disciples that the purpose for his coming is to die and to rise again. There are three distinct times when Jesus predicts his death and this is the first of those three. And Peter makes clear that incompleteness of his faith by rebuking Jesus. He was not ready to hear that his society’s version of the Messiah as the conquering king was the wrong one. He fully accepted Jesus as the Messiah, his only Savior. But like many of us, his view was incomplete. It was so incomplete that Jesus says he was being used by Satan himself in viewing the Messiah through the ideas of man rather than the Sovereign plan of God. So in verse 33, Jesus says, **“Get behind me, Satan! For you are not setting your mind on the things of God, but on the things of man.”** Our faith in Jesus must be rooted in God’s revelation of who He is, not our own ideas. God in his sovereign plan intended before Creation to send Jesus into this world, not to overthrow the Roman government, but to die for the sins of the world. Eventually Peter is fully healed just like the blind man. His faith in a risen Savior, Jesus Christ would lead him to stand up on the day of Pentecost in Acts 2 and declare the complete gospel of Jesus Christ, focusing not only on his identity as the Messiah and the Son of God but also his death and resurrection that sealed his identity as the Messiah. In **Acts 2:32, he boldly declares, “This Jesus, God raised up, and of that we all are witnesses.”**

So, there is hope for us. If there is hope for a man named Peter whose faith was weak and incomplete, but yet very real, then there is hope for us. But if we are going to grow in our faith to the place where like Peter we are bold in strongly declaring the gospel of Jesus Christ, then our faith must be rooted in Jesus himself as he is revealed in the Bible, not in our own ideas or society’s understanding. Just as Peter needed to see the real God, not a Messiah influenced by Jewish religious culture, we need to see Jesus for who he is. He is God himself who took on flesh for the sole purpose of dying on the cross as our Savior and rising again to complete our salvation. As those who follow Christ, we are called to focus on his past faithfulness. Imagine witnessing what the disciples saw and ever worrying about food again? We have seen the greatest miracle of all - salvation from the eternal consequences of our rebellion against God. How can we not trust him with every aspect of our lives? Do you know him as your Messiah, as your Savior, and are you trusting him and growing day by day in your faith in him? Let’s pray.